

さぎやませみいせき はつくつちょうさ げんちこうかいしりょう
鷺山蝉遺跡発掘調査 現地公開資料

平成 16 年 10 月 2 日 (土)

岐阜市教育委員会 社会教育室

(財)岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所

1. はじめに

さぎやませみいせき ひがしせみちない さぎやまseudouいせき さぎやまいちばいせき しょうめいじしろのまえいせき
鷺山蝉遺跡は、岐阜市鷺山東 蝉地内に所在し、鷺山仙道遺跡、鷺山市場遺跡、正明寺城之前遺跡、
しもつちいきたまんいせき しもつちいわかみやいせき
下土居北門遺跡、下土居若宮遺跡といった鷺山遺跡群のうちの一つにあたります。鷺山蝉遺跡の
発掘調査は、とちくかくせいりじぎょう
土地区画整理事業に先だって実施するものであり、平成 15 年度より調査を開始
しました。

鷺山蝉遺跡の範囲内には、江戸時代の文献資料や、明治時代の地籍図などの復元から、戦国時代前半には一辺約 120m で四角形の「せみどてじょうかんあと (せみどて きょかんあと)
とされており、その周囲には堀や土塁がめぐることが想定されていました。昨年度は、その居館跡をめぐ
る大きな堀や、区画溝などの遺構が見つかりました。今年度は、その東側の発掘調査を行ない、居館跡内部の様子
が明らかになるとともに、蝉土手城館跡より古い時代の居館跡と考えられる遺構が見つかりました。

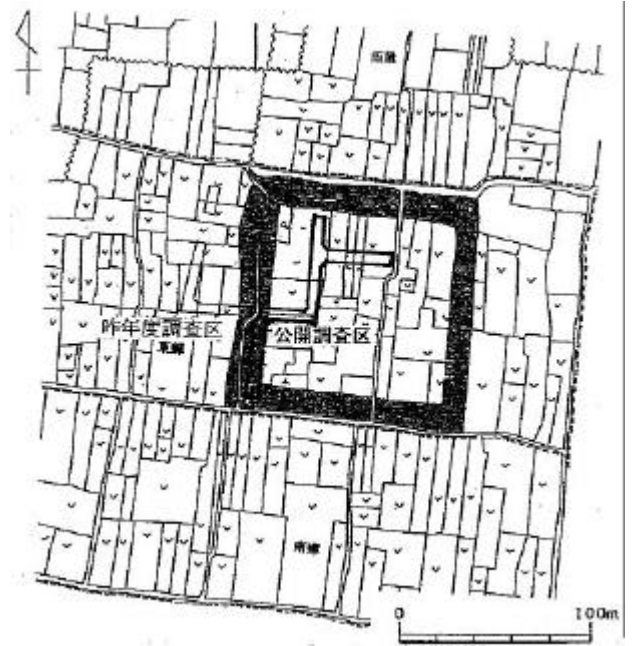


鷺山遺跡群と鷺山蝉遺跡、蝉土手城館跡の位置

2. 今年度の発掘調査成果

戦国時代前半（今から約 500 年前）

<調査区南側> 居館跡（^{きょかんあと} 蝉土手城 ^{せみどてじょうかんあと} 館跡）に関連する堀と土塁と考えられる遺構が見つかりました。この堀は居館跡の南西角に近い部分と考えられます。堀の東側の高まり部分には、土が盛られた痕跡が残っており、土塁が存在していたと考えられる範囲が見つかりました。その規模は盛土の範囲から推定して幅約 6m 程度で、土が盛られる前の室町時代前半（15 世紀前半、約 600～550 年前）までの遺物が多く含まれていました。



蝉土手城館跡の範囲

<調査区中央部> 石組遺構（^{いしぐみいこう} やかわらけ ^{はしきざら} 土師器皿）
が多く出土した穴（^{どこう} 土坑）建物の柱穴（^{はしらあな}）が見つかり

ました。石組遺構は規模が東西約 12m、南北約 1.7m で、平面形が長方形となっています。人の頭ほどの大きさの河原石を多数組み合わせしており、崩された部分もありましたが、底に石敷きがなされており、側面は石が二段積まれていました。このような大型の石組は、居館内の中心となる建物ではなく、蔵などの貯蔵施設とも考えられますが、他に類例はなく詳細は現在検討中です。

また、穴から出土したかわらけは大型のものが多く、文字の書かれたものも見つかりました。この他、穴からは渡来銭（^{とらいせん} 銅銭）や中国産の磁器や瀬戸・美濃産の陶器など様々な遺物が見つかりました。

<調査区北側> 石組遺構（^{いしぐみいこう}）と井戸が見つかりました。石組遺構は中央部のものとは異なり、南北両側に溝が流れる東西方向の石列で、城館内をめぐる^{へい} 塀などの施設の基礎であったと考えられます。井戸は桶積みの井戸枠（^{おけづ}）で、最下層部分に 2 段残っていました。この他、多数のかわらけが出土した穴が見つかりました。

鎌倉時代（今から約 800～750 年前）

<調査区北側> 長大な東西方向の堀が見つかりました。規模は幅約 6m、深さ約 1.5m で、長さは調査区外にのびるため不明です。このような大規模な堀をもつことから、居館等の大きな施設が存在したと考えられます。堀の中からは山茶碗^{やまぢゃわん}や中国産磁器が見つかりました。

3. まとめ

今回の調査では、戦国時代前半の居館跡^{きょかんあと}（蟬土手城館跡^{せみどてじょうかんあと}）の内部から石組遺構や塀^{へい}などの施設の基礎と考えられる遺構が見つかりました。これらは過去の鷲山遺跡群の発掘調査で類例が無く、多くの大型のかわらけが出土したことなどからも、居住者の格式が高いことを示すものと言えるでしょう。

また、蟬土手城館跡の中心域は、今回の調査では見つからなかったことから、当調査地点の東側にあると想定されます。今後の調査で居館の中心域の調査が進めば、中心施設だけでなく、庭園などの遺構も見つかるかもしれません。

鎌倉時代では、全国的に見てもこの時期では大型の堀が見つかりました。美濃国内でも上位の居住者の居館にともなう堀と考えられ、この場所に軍事的・政治的に重要な人物が住んでいたことが想像されます。

蟬土手城館跡^{せみどてじょうかんあと}は長良川や鳥羽川などの河川、伊自良街道^{いじら}、推定東山道^{すいていとうさんどう}などに近く、交通の要所といえる場所に位置します。また、付近は古代以来方県郡^{かたがたくん}の中心に近い位置にあたることで政治的にも重要な地点であることから、2 時期にわたって居館が同じ場所に築かれたのかもしれない。今回の発見は、鷲山蟬遺跡のこの場所がいかに重要な土地であったかが分かる大きな成果と言えるでしょう。

用語解説

遺構^{いこう}・・・大地に残る過去の人間活動の痕跡で、土地につながっていて分離できない不動産的なもの。住居や城・屋敷^{ふんぼ}・墳墓^{ふんぼ}・水田・畑などの構築物やその部分（堀、溝、柱穴、石組など）を指す。

かわらけ（土師器皿^{はじきざら}）・・・儀式や宴会等で使われた素焼きの皿のこと。

山茶碗^{やまぢゃわん}・・・鎌倉時代から室町時代にかけて、東海地方で盛んに作られた土器で、古代の須恵器^{すえき}の技術を受け継いで作られたもの。ろくろで成形し、1000 以上の高温と還元状態^{かんげんじょうたい}で焼かれるため、硬質な製品となる。

区画溝^{くかくみぞ}・・・屋敷や屋敷の内部を区画する溝

土坑^{どこう}・・・遺構の一つで、人間が地面を掘り下げ作った穴のこと。形状は様々で、その名称も廃棄土坑（ゴミ穴）^{ちゅうぞう}・鑄造土坑など、目的や用途により分かれる。

瀬戸・美濃産陶器・・・愛知県瀬戸市および岐阜県東濃地方で、鎌倉時代から近世に至るまで、盛んに焼かれた陶器。表面に釉薬が施されており、黒色や黄灰色の色調がよく知られている。

渡来銭^{とらいせん}・・・中国で製造された銅銭で、中世以降日本に大量に輸入され、流通した。



堀 (鎌倉時代)

かわらけが
出土した穴
(土坑、戦国)

堀 (鎌倉)

区画溝 (戦国)

かわらけが
出土した穴
(土坑、戦国)

溝 (古墳?)

石組遺構
(溝・石列・溝
戦国)

昨年度調査
堀
(戦国)

石組遺構
(戦国)

土塁
推定範囲

堀 (戦国時代前半)

堀
(戦国)

堀
(戦国)

石組遺構(戦国時代前半)

かわらけの出土した穴
(土坑、戦国時代前半)

鷺山蝉遺跡 B 4 区 ~ B 7 区の調査成果